



図-19 巣立ち雛の長距離ねぐら移動 11月12日(上)と11月13日(下)

同様の個体が、秋のねぐら移動の際、11月12日と13日にねぐら移動を2日連続で行った事例が確認された(図-19)。はじめ行徳近郊緑地のねぐらから夜明けとともに出発し、9時くらいまでの間に房総の南東海岸の新田川に40キロ以上の距離を一気に移動をしている。その後、新田川から別のゴルフ場ねぐらまで翌日も移動をしているが、こちらは日の入り直前の移動を行っていた。しかしこれも短期間に一直線に移動を行っている様子

が見て取れる（図-19）。そのほかのねぐら間移動のデータを見ると、11月13日のような夕方の移動は稀で、主に午前中や昼間のうちに移動しているケースが多いようだった。また、移動の際は経路を迷うことなく一直線に短時間で移動していることが明らかとなった。

カワウの季節移動は、時には100 km以上の広域移動を行うことが知られているが、今回もそのような事例がいくつも観測された。



図-20 栃木県の巣立ち雛個体の秋の季節移動に失敗した（？）と思われる長距離移動の事例 行き（上）と帰り（下）

前述の巣立ち雛は10月21日に季節移動を思われる総移動距離98 kmの移動を群馬県に向かって行った（図-20上）が、翌10月22日に再び120 km移動して栃木に戻る様子が確認された（図-20下）。どちらの移動も時速60~70 kmと非常に速い速度で一直線に移動をしており、移動時間帯も早朝から午前中であった（図-20）。



図-21 栃木県の巣立ち雛個体の秋の季節移動（上）と春の季節移動（下）

同個体は、2回目の秋の移動では、1回目の移動ルートとは異なる茨城県の太平洋沿岸を經由し、行徳へと向かって移動した（図-21 上）。この際は出発は早朝だが、休憩2回を挟み、15時に行徳に到着している。その後、越冬中に千葉県内のねぐらを移動し、春の移動の際は、房総半島中央部から栃木県まで一気に200 kmの移動を行っていた。時速は、域ほど速い速度ではなかったが、ほぼ迷いなく移動していることが分かった（図-21 下）。

このようにカワウは、半日で 100 km 以上離れたねぐら・コロニーを移動できること、また、そのような広い行動圏で執念的な移動を行っていることが改めて明らかとなった。よって、カワウの個体群管理自体は局所ごとに実施しなければならないが、一部の都道府県で実施しても広域の個体群移動でその効果が薄れてしまうことが予想されることから、広域的管理の重要性を改めて示すデータとなった。

#### 4. 成果の公表

- ・日本鳥学会 2021 年度大会 自由集会 W2 カワウを通じて野生動物と人との共存を考える (その 23) ドローンや発信器を用いたモニタリングにて「栃木県鬼怒川におけるカワウの行動追跡調査及び全国におけるカワウの飛来行動分析」丸山拓也、山本麻希、坪井潤一で口頭発表を行った。
- ・中部近畿広域カワウ協議会 2 月 16 日オンライン開催にて、「GPS 行動追跡調査及びモニタリング調査によるカワウ飛翔・採餌行動の解析解明」というタイトルで丸山拓也（長岡技術科学大学）が口頭発表を行った。

坪井潤一（水産技術研究所）、山本麻希（長岡技術科学大学）、三栖誠司（全国内水面漁業協同組合連合会）